

事務事業調書

平成26年度

事業No	415	課	商工課	係	工業労政係	起案者	早水直美
						決裁者	永井教彦
事務事業名	勤労福祉会館管理事業				事業種別	市民サービス	

1 事業概要

総合計画体系	5 活力にみちた環境づくり 5 消費生活・勤労者 2 勤労者 9 上記施策以外の施策 9 上記施策以外の施策			予算科目(会計)		一般会計	
				予算科目(款・項・目)		25-5-10	
				総合計画以外の計画			
				関連する総合計画の施策			
				性質区分	市の内部事務事業		
根拠法令	有	安城市勤労福祉会館の設置及び管理に関する条例、安城市勤労福祉会館の管理に関する規則					
法定受託事務	無						
公約・議会答弁	無						
陳情・市民要望	無						
実施方法	全部委託		委託先		民間企業		
実施期間	開始	昭和58年度		経過	31年目	終了	期間
求める成果 (目的)	誰(受益者)が		一般市民、勤労者が			～になる	勤労福祉会館を利用して福祉が増進される。
事務事業の内容	勤労福祉会館（昭和58年会館）の維持管理を行います。平成18年度より指定管理者制度を導入しました。 平成18年度～平成20年度指定管理委託 平成21年度～平成25年度指定管理委託						
改善・対策の履歴	平成13年度：エレベーター設置及びトイレ改修を行いました。 平成19年度：自動ドア取替え修繕を行いました。 平成20年度：大会議室、玄関のカテンを取替え修繕を行いました。 平成22年度：ホール室内のアース検査を行いました。 平成23年度：インターネットによる空室状況が確認できるようシステムの導入を行いました。 平成24年度：ホール室ドアの取替え修繕を行いました。 平成25年度：非常通報装置の取替え修繕を行いました。12月からインターネットの利用予約を開始し、利用者の利便性を図りました。						

2 事業費(千円)、人員推移(人)

項 目	平成23年度	平成24年度	平成25年度		平成26年度
	(実績)	(実績)	(予算)	(実績)	(予算)
総事業費	7,977	8,396	10,896	10,863	9,535
財源計	6,969	7,388	7,431	7,398	7,015
財源の内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	市債	0	0	0	0
	その他()	0	0	0	0
	一般財源	6,969	7,388	7,431	7,398
受益者負担金	0	0	0	0	0
職員人件費 (従事職員数)	1,008 (0.16)	1,008 (0.16)	3,465 (0.55)	3,465 (0.55)	2,520 (0.40)
人事課予算分 人件費	0	0	0	0	0

3 各活動にかかるコスト			年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
活動1	活動名 (活動内容)	施設管理委託	見込	1.00	1.00	1.00	1.00
			実績	1.00	1.00	1.00	
	指標名 (単位)	委託事業(一式)	活動の総事業費(千円)	7,716	8,396	10,863	
			活動にかかるコスト(千円)	7,716.00	8,396.00	10,863.00	
活動2	活動名 (活動内容)		見込				
			実績				
	指標名 (単位)		活動の総事業費(千円)				
			活動にかかるコスト(千円)				
活動3	活動名 (活動内容)		見込				
			実績				
	指標名 (単位)		活動の総事業費(千円)				
			活動にかかるコスト(千円)				

4 成果指標と実績の推移

指標名(単位)				年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
成果1	施設利用回数(回)			目標	1,900.00	1,900.00	2,000.00	2,500.00
				実績	2,403.00	2,467.00	2,335.00	
	目標達成年度		目標成果指標値	0.00	達成状況	達成	達成	達成
				目標				
成果2				実績				
	目標達成年度		目標成果指標値		達成状況			

5 成果1、2以外の成果

成果	勤労福祉会館の建物及び建物内備品の適切な管理を行い、利用者が気持ちよく利用できるようにしています。インターネットによる予約システムを稼働にあたり、事前に利用者への周知行い、円滑な運営と利用者の利便性を図ることが出来ました。
----	--

6 各活動にかかるコストと成果の分析

内部の取組や外部要因が与えた影響、課題等	
活動コスト	平成21年度からの5年間は指定管理の委託料が同額のため、委託費には大きな変動はありませんでしたが、老朽化に伴う施設の修繕費及び平成26年度からの指定管理者選定のための人件費等が増加したためコストは増加しました。
成果	施設利用回数は、前年度より微減したものの、自主事業について、前年に人気の高かった子供向けの「人形劇」は2回公演するなどの工夫をし、来場者数の増加につながりました。

7 所属長の改善案

コスト・成果について、事業の分析を踏まえた具体的な改善案
施設修繕は必要性を十分検討のうえ対応をしていきます。指定管理者の自主事業の講座開催については、勤労者である利用者の福祉増進に結びつくテーマの選定により参加者の増大につなげるよう働きかけます。

8 方向性

必要性、効率性、有効性を踏まえた事業の方向性	
維持・継続	社内研修など、公民館とは異なる利用ができ、勤労者のために必要な施設であることから、今後も適正な施設運営を継続します。自主事業である講座の開催にあたっては、市民や勤労者の関心の高いテーマの情報収集に努め、利用者の福祉増進につなげていきます。